

# 旭労災病院ニュース

病院情報誌

第148号

平成30年3月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

http://www.asahih.johas.go.jp/

## 糖尿病性腎症重症化予防プログラムについて

腎臓内科部長

市川 匡



現在厚生労働省が進めている糖尿病性腎症重症化予防プログラムについてご説明させていただきます。わが国の慢性透析患者は2015年末に32.5万人に、医療費は年間1.5兆円に達しています。新規透析患者のうち、糖尿病性腎症が43%と第1位であり糖尿病性腎症の重症化予防が重要となっています。厚生労働省は2016年3月に日本医師会および日本糖尿病対策推進会議と連携協定を締結し、糖尿病性腎症重症化予防の取り組みを国レベルで支援する観点から「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」が策定されました。

プログラムの主目的は重症化リスクの高い医療機関への未受診者等に対し受診を勧め、保健指導を行い治療につなげる事。通院患者のうちでも重症化リスクの高い者に対して主治医と相談し対象者を選定して保健指導を行い、人工透析等への移行を防止することとされています。そこで自治体が健診やレセプトを活用して、介入が必要な対象者を抽出。受診推奨や保健指導につながるプログラムを実施します。具体的には①健康診査・レセプトなどで抽出されたハイリスク者に対する受診推奨、保健指導。②治療中の患者に対する医療と連携した保健指導。③糖尿病治療中断者や健診未受診者に対する対応を行います。

対象者の抽出方法として、健診結果およびレセプトを用いて行います。

「健診結果から糖尿病性腎症基準該当者と判定された人」に対して、自治体からの結果通知時に「糖尿病性腎症の疑いあり、治療が必要であること」を伝え、治療状況の確認を行い、状況に応じて以下の対応を行います。

- A 未受診あるいは中断者の方：受診を勧め、保健指導により自己管理の重要性を伝える。
- B 定期受診している方：かかりつけ医に相談のうえ必要に応じて保健指導介入を行う。
- C 尿蛋白は陰性だが、糖尿病と診断された方：結果通知書に「糖尿病治療が必要であること」を伝え、治療状況の確認を行い医療機関にて尿中アルブミン、推定糸球体濾過量（eGFR）などから腎機能低下が判明した場合にはかかりつけ医と相談のうえ保健指導を行う。
- D 治療中の方：保健指導を行い、継続受診の必要性を伝えるとともに、必要に応じてかかりつけ医と連携して生活習慣改善指導を行う。
- E 過去に糖尿病治療歴あり、現在治療中断中の方：状況確認を行い再受診につなげるよう指導を行う。

### 保健指導の内容

保健指導は、対象者の検査値や糖尿病性腎症病期に合わせた内容で実施します。患者自身が糖尿病性腎症を理解し、重症化予防の必要性を理解できることが重要であり、確実な受診による血圧・血糖コントロール、減塩や禁煙、肥満者における減量などの自己管理により、透析を回避あるいは遅延できることを説明し、保健指導の実施体制については、市町村保健師・管理栄養士が直接行う場合と、外部の保健指導機関などに委託して実施する場合があります。愛知県でも糖尿病腎症重症化予防プログラムに積極的な自治体が出てきております。

# 難聴と認知症について

耳鼻咽喉科副部長 清水 崇博



高齢者の4人に1人は認知症、またその予備軍といわれています。現在、日本の認知症患者は約462万人(2012年厚生労働省調べ)となっており、団塊世代が後期高齢者となる2025年には、患者数が700万人を超えるとみられています。

高齢者の難聴が、認知機能を低下させる危険因子であるということが近年注目されています。難聴と認知機能の因果関係のしくみや、どちらがどちらに影響しているかといった方向性はまだ十分に解明はされていませんが、数多くの研究データから難聴が認知機能低下と深く関わっていることは実証されています。

難聴があると、聴覚刺激が入らないことによって周囲からの情報量が絶対に減少します。その結果、他人の言っていることがよく聞き取れない、会話がうまく成立しない、という経験を繰り返し、周囲との関わりを避けるようになります。そして、だんだん社会との交流が減少し、精神的健康にも影響を与え、認知機能の低下をもたらします。また、知識力や情報処理の速度も加齢によって衰えてはいきますが、難聴があるといっそう衰えが顕著になります。

高齢者の難聴は認知機能の低下だけではなく、うつや意欲低下、日常生活動作・運転能力などの低下から死亡まで、さまざまな負の影響をもたらします。特に問題視されているのが、聴力の低下を自覚されていない、もしくは自覚していても医療機関を受診されていない方です。

難聴にはさまざまな原因があり、感音難聴(突発性難聴、老人性難聴、聴神経腫瘍など)、伝音難聴(耳垢栓塞、急性中耳炎、滲出性中耳炎、真珠腫性中耳炎など)に大きく分けられます。耳垢栓塞、中耳炎、突発性難聴ならば処置や治療で聴力が改善できることがあります。老人性難聴は補聴器を装用することで聴力を改善できます。

難聴を改善することで認知症のリスクを軽減できる可能性もありますので、難聴でお困りの事がありましたら、早めに耳鼻咽喉科へご相談ください。